

# 目次

序文

花園大学国際禅学研究所所長

柳田聖山

## 第一部 世界を莊嚴する道——「現成公按」私釈

はじめに

一段	三つの時節	九
二段	自己を運ぶ迷	三九
三段	人の身心の限界	五八
四段	仏道をならうとは	六九
五段	道を求めるはじめ	九〇
六段	自己は常住ならず	九六
七段	生死の住法位	一〇五
八段	人のさとりをうる風光	一一六
九段	法充足すれば足らず	一二八
十段	うお水を行くごとく	一四二

十一段 遇一行修一行

一五八

十二段 大地の黄金なるを現成す

一七三

結語

一八五

## 第二部 荆棘の道で——道元の禪宗批判

### 序

一九〇

#### 一章 『弁道話』における批判

一節 禪宗の呼称の否定と内実の否定

一九一

二節 『弁道話』の先尼外道と「即心是仏」批判

一九七

二節 「即心是仏」の二様の誤解

二〇二

#### 二章 諸祖師に対する評価の変化とその意味

一節 二つの〈心不可得〉——徳山評価をめぐって

二二六

二節 臨済評価の変化

二三三

三節 〈仏道〉における青原門下の正統性の主張

二三〇

第三章 臨濟批判

一節 「無」の批判……………二四五

二節 四料簡批判……………二五八

三節 臨濟と經典……………二六九

四節 黄蘗との比較……………二七四

第四章 教外別伝と教禪一致批判

一節 教外別伝……………二八三

二節 身心脱落諸説批判……………三〇〇

三節 教禪一致……………三三四

四節 三教一致批判……………三五五

第五章 大慧宗杲への評価

一節 道元と大慧の共通点……………三六八

二節 大慧評価の妥当性……………三八六

三節 見性批判……………四〇二

註……………四一八

第三部 新生の道元——十二卷本『正法眼蔵』をめぐる

一章 資料について……………四二九

二章 七十五卷本と十二卷本の形式的違い……………四三四

三章 十二卷本の思想的特徴

一節 禅への絶望〈深信因果〉……………四四一

二節 因果の論理〈三時業〉……………四五〇

三節 仏道と外道〈帰依仏法僧〉〈四禅比丘〉……………四六四

四節 一箇接得の絶望〈四馬〉……………四八〇

五節 功德としての諸行〈供養諸仏〉〈出家功德〉〈受戒〉〈袈裟功德〉……………四八七

四章 新生の道元

一節 仏から菩薩へ〈発無上心〉と〈発菩提心〉……………五〇五

二節 南無釈迦牟尼仏、あわれみたまえ〈発菩提心〉〈一百八法明門〉〈八大人覺〉……………五一一

註……………五一六

あとがき……………五一九

## 凡例

一、『正法眼蔵』の各巻名はへくでくつた。『正法眼蔵』のテキストは『道元上・下』（日本思想体系、岩波書店）を用いた。そこにはないものは、『道元禪師全集』大久保道舟編を用いた。

一、『正法眼蔵』の引用文はへくで示す。ただし、第三部では、「」を用いた。

一、『永平広録』のテキストは『道元禪師全集』三、四巻（春秋社）を用いた。番号はこのテキストによる。なお上堂の年号は、石井修道氏の年代表（『十二巻正法眼蔵本の諸問題』328頁）を参照した。

一、『正法眼蔵随聞記』『宝慶記』などのテキストは『道元禪師全集』七巻（春秋社）を用いた。ただし、第一部では「日本古典文学大系」（岩波書店）を用いた。

一、第一部「世界を莊嚴する道」で用いる注釈書は次の通りであり、本文では次のような略号によって示す。  
なお古釈で読みにくいものは、かっこ内に言葉を補うことにする。

(伝統的宗門解釈)

『御聴書』 『御聴書抄』に収む

詮慧提唱

『御抄』 (1303-1308)

経豪著

『聞解』 『正法眼蔵聞解』(1755-1776)

面山瑞方著

『一字参』 『正法眼蔵却退一字参』(1769-1770)

瞎道本光著

『私記』 『正法眼蔵私記』(?-1788)

安心院蔵海著

(以上 『正法眼蔵註解全書』による)

『啓迪』 『正法眼蔵啓迪』(1889、代々木書院)

西有穆山提唱

『永平』 『永平正法眼蔵』(1956、春秋社)

増永靈鳳著

『正伝』 『仏祖正伝の道』(1966、筑摩書房)

増谷文雄著

『全講』 『正法眼蔵全講』(1972、大法輪閣)

岸沢惟安(1929提唱)

『安心』 『安心して悩め』(1985、大法輪閣)

酒井得元提唱

『味わう』 『現成公按を味わう』(1987、柏樹社)

内山興正著

『語る』 『現成公案を語る』(1991、大法輪閣)

樽林皓堂提唱

(見性禪的解釈)

【弁註】 『正法眼蔵弁註並調絃』 (1726-1727)

天桂伝尊著

【那一宝】 『正法眼蔵那一宝』 (1791)

父幼老卵著

(以上 『正法眼蔵註解全書』による)

【参究】 『正法眼蔵参究—現成公按』 (1967、春秋社)

安谷白雲著

(哲学的新解釈)

【釈意】 『正法眼蔵釈意』 (1939、山喜房仏書林)

橋田邦彦著

【大系】 『正法眼蔵思想大系』 (1953、法政大学出版局)

岡田宜法著

【新講】 『正法眼蔵新講』 (1963、黎明書房)

伊福部隆彦著

【解説】 『正法眼蔵 正法眼蔵随聞記』 (1965、岩波書店)

西尾実著

【哲学構造】 『道元の実践哲学構造』 (1967、山喜房仏書林)

高橋賢陳著

【まねび】 『古仏のまねび〈道元〉』 (1969、角川書店)

高崎直道著

【哲学】 『道元の哲学』 (1970、山口大学研究論叢第一九卷第一部)

杉尾守(玄有)著

【中山釈】 『正法眼蔵中山釈』 (1974、百華苑)

中山延二著

【入門】 『正法眼蔵入門』 (1985、朝日新聞社)

森本和夫著

【講話】 『正法眼蔵講話』 (1989、筑摩書房)

西谷啓治著